

最新栽培技術 成果驚き 福井農林高生



金福すいかの糖度を測る生徒たち＝11日、福井市の福井農林高

新「金福すいか」で調査

福井農林高生物生産科の3年生5人は11日、福井市が品種改良を進め、同校でも栽培してきた新「金福すいか」の収穫と品質調査を同校で行った。生徒は最新の栽培技術の成果を実感していた。

ICT（情報通信技術）を活用したスマート農業の学習の一環として、ハウスで約120本の苗を育てて

きた。栽培には、自動で水まきを行うAI（人工知能）灌水システムと、紫外線を青色光に変えるシプロ化成（坂井市）の波長変換フィルムを導入した。生徒は6月下旬から収穫

を開始し、最適な土壌水分量やフィルムの効果を調査。試験区の9個のすいかについてはフィルム有りと無しによる糖度、大きさ、重さを比較した。

その結果、フィルム有りの平均糖度は、無しの平均糖度12度を1度ほど上回った。フィルム有りがこの日の最高値14・2度を記録すると、生徒からは驚きの声が上がっていた。

調査に携わった八十島甘奈さん(17)は「スマホ一つで水分量の調整もでき、農業が楽になる。栽培に生かせるようAIとフィルムの効果を農家に伝えたい」と話した。

同校は今回の結果を踏まえ来年も栽培に取り組み、校内の販売所「ふれあいマーケット」などで本格販売する予定。（北川奈々聖）